

令和八年度

滋賀短期大学 学校推薦型選抜B II期

小論文 問題用紙

受験番号	
氏名	

【注意事項】

- 1 問題用紙は、表紙を含めて二枚です。解答用紙は二枚です。
- 2 各頁の左上の番号で、枚数を確かめてください。
- 3 問題用紙の表紙に、受験番号と氏名を記入してください。
- 4 解答用紙に、受験番号と氏名を記入してください。
- 5 小論文の解答の下書きが必要な場合は、表紙の裏面を使用してください。
なお、小論文の解答の下書きが必要な場合は、表紙の裏面を使用してください。
- 6 「始め」の指示で、解答を始めてください。

課題文を読んで次の各問に答えなさい。

問一 あなたが感じたことを八百字以内で述べなさい。(配点九〇点)

三枚目の解答用紙(四百字詰原稿用紙)の一行目から、書き始めなさい。

問二 あなたの書いた文章にふさわしいと思う題をつけ、解答用紙の題名欄に記入しなさい。(配点一〇点)

【課題文】

〈生きがい〉は、日本文化の中に昔からあり、私たちの中に深く根づいた概念なので、それが何をもちたらずかをはっきりとさせるため、私はこれから、現代の行動様式との関連性を探りつつ、日本文化の伝統を深く掘り下げていくことになる。〈生きがい〉は、認知と行動の中心だと私は思っている。〈生きがい〉の周りで、さまざまな生活習慣や価値体系が組織されているのである。日本人が毎日の生活の中で、必ずしも意味を正確に知らないままに〈生きがい〉という言葉を使ってきたという事実こそ、〈生きがい〉の重要性を示している。十九世紀後半のイギリスの統計学者・社会学者・心理学者フランシス・ゴルトンによって最初に提案された語彙仮説(Lexical hypothesis)に照らし合わせてみよう。ゴルトンは、ある文化の持つ性格的特性について、重要な特性はその言語の中に現れるようになり、その特性が重要であればあるほど、たった一語で表されるようになるという。〈生きがい〉がこうして一語で表されるという事実は、この概念が日本人の生活に関連する主要な心理的特徴を表していることを意味する。〈生きがい〉は、島国という緊密な社会の中で何百年という時間をかけて進化してきた日本人の生活の知恵や、独特の感受性、日本社会になじむ行動様式を象徴しているのである。

もちろん、〈生きがい〉を持つのに日本人である必要はない。〈生きがい〉は、私的な喜びの中にあると私は考えており、このことでは、イギリスで出会った特別な椅子のことを思い出す。

一九九〇年代中頃に、私は、ケンブリッジ大学の生理学研究所で博士研究員として研究をしていたが、当時私はある著名な教授の家に下宿していた。私が住むことになる部屋を見せてくれたとき、彼はそこにある椅子を指して、彼にとって思い出深く、心から大事にしているものだと説明してくれた。彼が子供の頃、父親が彼のために特別に作ってくれたものだった。

この椅子には何も特別なところはない。正直に言えば、それはむしろ不格好だった。デザインが洗練されておらず、あちこちがたがきていて、でこぼこしているところがあった。もしその椅子が市場で売られていたら、高値がつくことはなかったろう。それでもやはり私には、その教授の目に宿った一瞬の光によって、その椅子が彼にとって特別な意味があるものだということがわかった。むしろ、大事なのはそこだった。その椅子は、教授の心の中で特別な場所を占めていた。ただ彼の父親がそれを彼のために作ってくれたということのみによって。心の中の価値というのはそういうものだ。

これは小さな例に過ぎないが、誰もがうなずいてくれるだろう。〈生きがい〉とは、その教授の椅子のようなものである。〈生きがい〉とは、自分にとって意味がある、人生の喜びを発見し、定義し、楽しむということにつきる。

茂木健一郎著、思蔵絢子訳『生きがい―世界が驚く日本人の幸せの秘訣―』(新潮文庫刊)